

農山漁村活性化部門

株式会社しらかみファーマーズ

耕作放棄地の再生とにんにく新産地形成



- ① 建設業の強みである重機と施工技術を活用して耕作放棄地を再生し、地域活性化につなげることを目的に、平成23年に北秋田市内の建設業者3社が共同出資して、「(株)しらかみファーマーズ」を設立しました。にんにく、だいこんの生産と加工に取り組んでおり、地域における雇用の貴重な受け皿となっています。
- ② 主な加工品である「黒にんにく」は、試行錯誤を繰り返し、独自の製造ラインとマニュアルを開発して安定した品質の製品を生産しており、商品名「白神フルーツ黒にんにく」として全国各地へ販路を拡大しています。
- ③ 6次産業化による周年雇用のモデル的な経営を実現したほか、「北秋田・大館地域にんにく生産振興協議会」、「秋田県にんにく生産者協議会」の設立と運営に主体的な役割を果たしており、にんにく生産を通じて、本県の農業振興と地域の活性化に貢献しています。



所在地	北秋田市米内沢字長野岱
品目等	にんにく、だいこん、加工品（黒にんにく、いぶり漬けだいこん）
作付面積	17ha



令和元年度

ふるさと秋田 農林水産大賞

受賞者の業績

産地部門

JA秋田おばこ ねぎ部会	大仙市	大賞
JA秋田ふるさと きゅうり部会	横手市	大賞

担い手部門

【経営体の部】

安田 善八	男鹿市	農林水産大臣賞・大賞
佐藤 拓史	由利本荘市	大賞
農事組合法人メガファーム	横手市	大賞

【未来を切り拓く新規就農の部】

合同会社久保井ファーム 代表社員 久保井 優司	能代市	大賞
----------------------------	-----	----

農山漁村活性化部門

株式会社しらかみファーマーズ	北秋田市	農林水産大臣賞・大賞
----------------	------	------------

令和元年度
ふるさと秋田
農林水産大賞

秋田県

産地部門

JA秋田おばこ ねぎ部会

契約出荷を基盤にしたねぎの産地拡大



所在地	大仙市佐野町
品目	ねぎ
栽培規模	23.3ha
構成戸数	44戸

- ① 平成25年に設立した「美郷町ねぎ部会」と「仙北エリア園芸振興協議会」を母体に、29年に広域で活動を行う「JA秋田おばこねぎ部会」を設立しました。30年には販売額1億円を突破し、更なる産地拡大に向けて活動しています。
- ② 越冬大苗を活用した早どり栽培の導入により、栽培面積が増加するとともに、出荷期間も拡大しています。また、土壌分析を推奨し、適正な施肥管理を推進しています。分析は有料ですが、経費の一部を部会が補助しており、会員が利用しやすい環境づくりに努めています。
- ③ 市場ニーズの高い2本結束の出荷に取り組んでおり、単価が高く、所得向上につながることから、今後もし出荷量を増やしていくことにしています。



JA秋田ふるさと きゅうり部会

長期安定出荷によるきゅうり販売額3億円達成



所在地	横手市雄物川町今宿字前田面
品目	きゅうり
栽培規模	12.7ha
構成戸数	92戸

- ① 平鹿地域では昭和53年頃の水田利用再編を契機にきゅうり栽培に取り組み、平成10年、JA秋田ふるさとの発足と同時にきゅうり部会を組織し、生産を拡大しました。27年には園芸メガ団地での営農が開始され、大規模きゅうり栽培にも取り組んでいます。
- ② 露地栽培において、防虫ネット栽培を拡大し、強風時のスレ果の発生や葉傷みなどによる収量・品質低下の軽減に取り組んでいます。
- ③ 熟練農家を技術アドバイザーとして任命したほか、部会員による出荷時検査を実施し、栽培技術や品質の向上に努めています。また、土壌分析に基づいた化学肥料の削減や、通いコンテナによる流通の合理化にも取り組んでいます。



担い手部門

経営体の部

安田 善八

若獅子のごとく駆け続けるキク栽培のリーダー ～大規模施設栽培への飽くなき挑戦～



所在地	男鹿市船越字サッピ
品目	輪ギク、カンパニユラ、水稻、野菜類
作付面積	4.0ha



- ① 平成15年4月に就農し、福岡県八女市の篤農家での研修後、パイプハウス12棟(1,300坪)による輪ギクの大規模長期出荷体制を確立しました。27年には園芸メガ団地に参画し、さらなる規模拡大を図っています。
- ② 選花ロボットや結束機を導入することで省力化を図り、シェードや電照、直挿し、無摘心栽培といった技術を駆使しながら、6月から12月までの輪ギクの長期出荷を行っています。また、葉物野菜や洋花類を組み合わせ、年間を通して収入を確保しています。
- ③ JA花き部会長を歴任し、現在は県花き連きく部会の部会長を務めるほか、「男鹿・潟上地区園芸メガ団地」では、若手の指導に当たるなど、地域内外の生産者の手本となっています。

経営体の部

佐藤 拓史

中山間地域における畜産の力を信じて! ～規模拡大への挑戦～



所在地	由利本荘市鳥海町百宅字清水沢
品目	畜産(肉用牛)
飼養頭数	63頭



- ① 北海道の農業高校教員を経て、平成25年にUターン就農し、父から繁殖牛20頭を承継して、肉用牛(繁殖)経営を開始しました。現在は飼育頭数を63頭まで拡大し、地域を代表する若手繁殖農家として活躍しています。
- ② 衛生対策と基本技術を徹底し、専門的な知識と数値管理により優良な子牛の生産に取り組んでおり、事故率3%以内、年間子牛生産率76%という高成績を実現しています。
- ③ 県外の肥育農家と提携し、素牛生産から肥育、食肉提供までの一貫した生産・流通体制の整備や交流活動を行い、生産者の顔が見える畜産経営を実践しているほか、地元では耕種農家への堆肥供給や若手生産者と連携したイベント出展など、地域活動にも積極的に取り組んでいます。

経営体の部

農事組合法人メガファーム

プロジェクトMEGA ～地域農業の活性化を目指して～



所在地	横手市十文字町越前字越前
品目	ほうれんそう、きゅうり、すいか、キク
作付面積	6.6ha
構成戸数	6戸



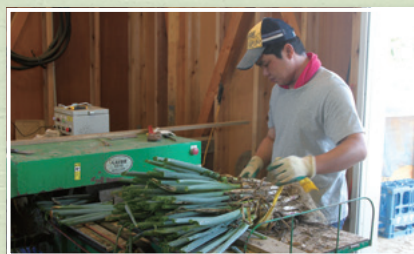
- ① 平成27年に園芸メガ団地整備事業を契機として、「(農)越前」の構成員6名が、園芸品目の経理の明確化や法人内の意思決定の効率化を図るため、園芸部門を独立させて「(農)メガファーム」を設立しました。営農3年目の29年以降、販売額1億円を達成しています。
- ② 大規模施設によるほうれんそうの長期出荷を行うほか、きゅうり栽培ではネットハウスを積極的に導入し、強風によるキズ果等の防止に取り組んでいます。キクでは省力機械を導入し、労働力軽減を進めているほか、輪ギクを主体に同一品種の長期出荷を実現しています。
- ③ 熟練者と初心者が組んで作業を進めることにより、早期の技術習得を図っているほか、「トヨタ式カイゼン」を取り入れ、作業の効率化を進めています。

未来を切り拓く新規就農の部

合同会社久保井ファーム

代表社員 久保井 優司

移住就農者による大規模園芸団地への取組



所在地	能代市万町
品目	ねぎ、キャベツ
作付面積	3.4ha



- ① 平成26年に東京から能代市に移住し、園芸メガ団地での研修を経て、28年に営農を開始しました。経営規模の拡大に伴い、労働力の安定確保に向けて、30年に「(同)久保井ファーム」を設立し、さらなる経営発展を目指しています。
- ② 移住者が就農する上でポイントとなる「経験」、「資金」、「農地」、「地域」の壁を地域の仲間達の協力で乗り越えてきました。県内移住就農の優良事例として数多く紹介され、農業に挑戦しようとする多くの若者達に元気を与えています。
- ③ 地域で生産が盛んなねぎとキャベツの大規模栽培に取り組み、令和2年度には地域の若手生産者とともに、大規模園芸拠点の整備を計画しており、地域農業のパワーアップにも貢献しています。